

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2774901165		
法人名	社会福祉法人 華苾会		
事業所名	ジェントレス宮		
所在地	大阪府富田林市宮町1丁目3番5号		
自己評価作成日	平成 24年 8月 31日	評価結果市町村受理日	平成 24年 11月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2774901165-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2774901165-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 9月 29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で「第二の住まい」として安心した生活を過ごしていただいています。介護予防運動や、レクレーションとして独自の体操メニューを作り、毎日約1時間体操の時間を設け行っています。手ぬぐいや鳴子などの用具を使用し、職員と共に楽しみながら体を動かしています。壱番館は重度化が進み、外出の機会が減りましたが、散歩や買い物など、時間に縛られることなく、家族、地域住民の協力を得ながら柔軟に対応しています。。今後もご利用者が生き生きと生活しやすい環境づくりと、支援を行います

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域で保育所の運営に携わる社会福祉法人が設立したグループホームです。「お宮さん」が近くにある、のどかで由緒ある地域に建てられています。鶯の鳴き声が聞こえる環境にあり、リビングや居室から四季折々の景色を楽しむことができます。理念として「自分が利用者だったら」を掲げ、常に利用者の立場にたった支援を大切にしています。保育園児との交流や、地域行事への参加等も利用者の生活に潤いを与えています。利用者が運営推進会議に出席して意見を述べたり、「栄養献立会議」に全員参加したり、運営に利用者が参画する、利用者本位のサービスが実践されています。昨年1ユニット増設し、今後さらなる発展が期待されるグループホームです。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分が利用者だったら」を常に考えたサービス提供を理念とし、施設内数か所に掲示し、職員会議などで話し合い確認している。出勤時、退勤時には法人理念と介護理念の音読を全職員が必ず行い、理念共有の周知徹底に努めている	独自に作られた理念「『自分が利用者だったら』を常に考えてサービスを提供します。」を掲げ、玄関や事務所等に掲示しています。理念は、管理者と職員が日々の具体的なケアについて話し合う中で、常に大切な原点として共有し、活かされています。事業所と地域との大切な関係性については、運営方針や法人理念に明示しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事がある場合には、声をかけて頂き可能な限り参加し、交流を深めるよう努めている。また、日常生活を通じ、散歩などの際には近所の店に立ち寄り、日常なお付き合いが出来る様、努めている	事業所は開設以降7年が経過し、地域からの理解が進み、自然な付き合いができています。お米は、隣の農家から年間契約で購入しています。地域行事で出店のある花見会や、保育園の運動会などに参加しています。地域にある保育園児との交流会は、利用者の楽しみの一つとなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	問い合わせ、相談等に対して関係機関と連携し、適切な対応を行っている。保育園、学校、地域の行事などに参加した際に、理解、協力などを得られるように努めている。また、いつでも立ち寄って頂きやすいような環境作りを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>            運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の規程、規約を定め、2か月に1回、定例で開催している。利用者、家族、地域包括支援センター職員、社協職員、地域の代表者等が参加し、事業所の取り組みや活動内容を写真などを取り入れ、十分に理解して頂けるよう報告を行っている。また会議で明らかになった課題や改善点については、経過報告や結果をほうこくしている</p>	<p>運営推進会議は、地域包括センター職員、社会福祉協議会職員、地域の代表、家族会の会長、家族・利用者代表、法人理事長が出席して2か月に1回、年6回開催しています。1年間の開催予定日を決めており、議事録も作成しています。会議では、事業所から利用者の状況、サービスの状況を報告し、感想や助言を得ています。出席者から所見や助言をいただけるよう、たくさんの写真を見ながら報告する等、会議内容に工夫をしています。</p>	
5	4	<p><b>○市町村との連携</b>            市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>各種報告書以外にも市町村担当者と連絡を取り、関係づくりを行っている。また、職員の質の向上を目指し、各種研修の案内や説明を通して、支援を頂けるよう取り組んでいる</p>	<p>市町村の担当者とは何でも相談できる関係が築かれています。管理者は事業所の事項だけではなく、市内グループホーム交流会等の立ち上げについて相談し、開催に繋げています。月1回、介護相談員の受け入れもしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>            代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関の施錠はしていない。ご利用様が外出しそうな様子に気付いた時は、安全面に配慮し、一緒に行動し、自由な暮らしをささえている。「身体拘束ゼロへの手引き」を基に、不定期ではあるが、勉強会を行っている。</p>	<p>管理者は、身体拘束をしないケアの実践に取り組み、身体拘束排除宣言を掲げ、職員の研修も実施しています。玄関の鍵は開錠しています。各居室の外側のガラス戸も開けることが可能です。敷地から道路への門扉もオープンにしています。職員は、利用者の外出願望や行動パターンを把握し、できる限り自由に暮らす支援をしています。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>            管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内外の研修に参加し理解を深め、職員全員で見過ごすことの無い様に注意し、防止に努めている。            職員が互いに注意し合える雰囲気作りに努めている</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>            管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護を利用されているご利用者様がおられ、その利用に際して必要な支援を行うと共に、関係機関との連絡を密にとり情報を共有し、より良い生活を送れる支援を行っている</p>		
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b>            契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前後には利用者及びその家族の要望を聞き、時間を取って十分な説明を行い、安心して納得して利用して頂けるよう努めている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談受付箱を設置し対応している。また、家族来訪時には、必ず声かけを行い、お茶を飲みながら気軽に話せる雰囲気作りに努めている。また、家族会があり、総会を開催し、意見を聞く機会を作っています。ご利用者様には、介護相談員ぴあさんによる訪問の際に要望や意見を言える機会を作っている	家族会があり、年2回の総会で意見や要望を聞いています。日常的には、面会の都度、話を聞きます。日常生活状況を伝える「じえんとれす」通信は、利用者の写真入りで、キーパーソンの家族だけでなく、家族会から遠くに住む身内にも送付してほしいとの要請があり、幅広く送っています。苦情受付箱を設置し、苦情をサービス改善に活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議時、自由に意見を発言できる機会を設け、意見を反映出来るように努めている。また、いつでも意見を言いやすい雰囲気作りに努め、その都度話し合いや意見交換、情報収集をし、迅速な対応を行っている。	毎月の全体会議では、自由に意見を出しあっています。また、施設長は日常的に何でも話せる雰囲気作りに心掛けています。年1回、基本的介護チェックを全員で自己評価を行い、自分を振り返る機会とし、提出後は施設長と面談を実施しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からその都度、相談などを聞く機会を設けている。職員一人一人に役割を持ってもらい、やりがいとなる環境作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修等に全ての職員が参加できるよう調整を行い、介護従事者としての質の向上に努めている。また、就業年数に応じた研修への参加を考慮している。研修後は研修報告書を作成し、全体会議時に伝達研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム交流会の立ち上げを行い、情報交換会を行っている。市外のグループホームへの見学や勉強会にも引き続き参加している。また実習生の受け入れを行うことにより、当施設職員の勉強の機会を設けている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	随時、施設見学をして頂き、入所される際には体験入所をご利用頂き、ご本人の希望、要望等について十分な聞き取りを行っている。安心してご利用して頂けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	随時施設見学をして頂きご家族の希望、要望等について十分な聞き取りを行い、安心してご利用頂けるよう努めている。また面会時には現状報告を行うと共に家族の意見や希望、要望をお伺いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受け付けた相談に対して迅速に対処し、必要時には関係機関と連携し、適切な対応を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者には家事を中心とした日常生活を送って頂いている。特に食事作りや、洗濯たたみは利用者が中心となり行っている。職員は家事に関する知識をご利用者様から教えて頂く事が多く、家事を通して、より深い関係が築けるようにつとめている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の負担とならない範囲で行事等に参加頂き、実際の生活を体験して頂く事で関わりをもって頂く事で関わりをもって頂き、職員との信頼関係の強化に努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理美容店への送迎、かかりつけの病院への受診、ご本人との連絡面会、電話の取次ぎ等、出来る限りの支援を行っている	行きつけの美容院に行く、趣味のコーラスサークルに参加する、地域の手作り教室に通う等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援しています。「じえんとれす」通信も利用者にとって一人ひとりの大切な人に送り、関係継続に役立っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でトラブルやストレスにならないよう、職員がパイプ役となり、さりげない見守りをを行っている。また、仲良しの利用者同士には、話がしやすく、ゆっくりできる環境を、提供している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設以来サービス利用終了後在宅への復帰はなく、本人への相談や支援はしていない。病院への入院の際は、情報の提供や、家族に対して、困っていることや相談に対応する等、関係が途切れないよう支援を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から小さな気付きを見逃すことなく、言葉や表情等から把握できるように努めている。意思疎通が可能な方には生活への希望や、好きなことの聞き取りを行い、意思疎通が困難な方にはご家族様から情報を得て、日々の生活に反映できるように努めている	入居時の面接で、一人ひとりの生活歴や思い・趣味など丁寧に聞き取り、フェイスシートに記録しています。本人の生活歴等を大切にしながら、その場・その時の利用者の感情や意思を尊重しようと、日常のケアの中で把握できるように心がけています。気づいたことは記録に残し、職員間で共有できるようにしています。	日常のケアの中での気づきや発見は記録に残されていますが、職員間で共有しやすい工夫をされ、さらなる利用者主体のサービスに繋がることが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前及び入所後も家族から人生歴や生活歴を伺いサービス利用の把握に努めている。プライバシーに配慮し、本人、家族、職員等馴染みの関係を築きながら、一人一人の暮らしの支援を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、ご利用者様を総合的に把握し、心身状態や出来る力の把握に努めている。また、しっかりと記録にも残し、情報の共有にチームケアの実施を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、本人及びその家族から希望を聞いて、具体的にどのようなことがしたいのか等の意見や要望を記録に残しています。ケアの在り方についてはその都度ご利用者様にあったケアを臨機応変に対応し、その情報を職員全員が共有している	利用者や家族の意見を基に、介護計画を作成しています。課題解決型ではなく、どのようにしたいのか、何が出来るか等、利用者に力を発揮してもらう視点を大切にしています。モニタリングやアセスメント見直しは、1ヵ月毎に実施します。介護計画のサービス提供については、提供してどうだったかを毎日確認して記録しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別にケース記録を記入し、日々の活動や生活状況、心身状態、ケアの実践内容を具体的に記録している。また情報を共有し日々の実践や、介護計画に活かしている。変化がみられる時は、記録を参考にしながら、ケアプランの見直しにも活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人及び家族の希望、要望に、出来る限り柔軟な対応が出来るように日常的に調整を行っている。買い物、外出散歩、他科受診の移送、付き添いを行っている。また、必要時には、管理医の時間外往診の対応を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の馴染みの理美容院を利用して頂く支援と、地域のサークル活動への参加の支援を行うと共に、地域の方々にご理解頂きながら、スーパーでの買い物を生活の一部として楽しんでいる。また、随時近くの飲食店の利用も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理医との連携に努め、本人及びその家族等の希望に沿う適切な医療を受けて頂き、必要時、病院の受診が出来る支援を行っている。また、通院の方法や結果についても、本人、家族と話し合いを行っている	毎週、管理医による診療で、利用者の健康面の支援を実施しています。利用者・家族の希望で入居前からかかりつけの医療機関への受診も可能で、入居以降、管理医を主治医とする利用者が多い状況です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者をよく知る看護師に報告、連絡、相談をしながら支援を行っている。日常の健康管理の方法や医療活用の支援の方法の指示をうけている。また、必要時には訪問看護を導入し、密に情報交換を行い支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、本人及びその家族に契約の取り扱いについて説明し、安心して過ごせるよう配慮している。また、本人の状態についても病院関係者と連携し、情報交換や連携に努めている。不定期であるが、出来るだけ面会に行かせていただき状態の把握に努めている。また退院時にはムンテラに参加し予後の説明や退院後の指示やアドバイスを受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者でも出来るだけ長期間施設で生活して頂けるよう配慮しているが、事業所として対応出来ること、出来ないことについては、管理医、家族と繰り返し話し合い、方針を共有している。常時医療が必要になった場合については、医師の指示にて医療に任せている。推進会議や家族会などでも話し合っている。	入居契約の際、重度化・終末期の対応は、管理医の指示に従う確約書を得ています。重度化した利用者でも、できるだけ長くホームで生活してもらうよう配慮しており、事業所として対応できること・できないことについては、管理医、家族と話し合っています。運営推進会議や家族会でも、重度化の対応について話し合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議やフロア一会議開催時、急変時の初期対応の勉強会を実践を交えて行っている。事故発生時には報告を行うと共に、今後同じ事故が起きないように今後の対策をその都度話し合っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルに基づき定期的に各種団体、近隣の方々に参加頂き、地域の人々の協力を得られる働きかけを行っている。夜間の災害時には、随時勉強会を開催し、職員全員が周知出来るよう実地訓練を行っている	急変時や災害発生マニュアルを作成しています。平屋建てで、各居室から避難できる構造になっており、火災発生時には地域への協力もお願いしています。地域青年消防団の協力で、避難訓練も実施しました。火災や災害時の対応については、随時学習会を開催し、周知しています。消防署の協力を得て、避難訓練は実施できていない状況です。災害時に備えての飲料水や食品は備えています。	今後は、消防署の協力の下での避難訓練を実施し、利用者の安心・安全な生活を支えてもらえるよう依頼することが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけに対して十分な配慮を行っている。本人のお気持ちを大切に、そっとさりげない支援を行うよう心がけている。人格を尊重し誇りやプライバシーを大切に言葉かけを行っている。適切でないケアがあった場合は、その都度指導を行っている	理念である「自分が利用者だったら」を常に念頭に置き、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーへの配慮をしています。研修生にはアンケートをとり、外部からの指摘も真摯に捉え、サービスの改善に活かしています。毎年の基本介護チェックの項目には、マナー・倫理に関する項目も入れ、職員全員が自身の振り返りを行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様からの希望は日常的に聞くように働きかけを行い、要望や訴えが言いやすい雰囲気づくりを行い、個別に対応を行っている。食事面ではバイキングなどを取り入れ、選んで頂く場面を作り、支援している。特に食事面では栄養会議を開催し、利用者の希望や要望を取り入れたメニュー作りをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	緊急性、優先しなければならない事柄もあるが、出来る限り個々のペースに合った生活を行って頂いている。朝の起床時間は特に決めておらず、覚醒された方からモーニングケア介助を行っている。一人一人の体調に配慮しながら、突然であっても本人の希望を大切にしている。入浴に関しても、出来るだけ希望に沿った曜日、時間の取り組みをおこなっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の生活の中でも化粧品の管理や、買い物などの支援を行い継続して支援を行っている。また、本人及びその家族の希望に沿った理美容のための外出は、十分な時間配分や人員配置に注意し、その人らしい身だしなみの支援や、希望する理美容店への支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>第2、第4日曜日に栄養献立会議を開催し、利用者と職員と一緒にメニュー作りを行っている。調理はご利用様の重度化に伴い職員中心となりがちですが、テーブルで一人一人がまな板と包丁を使って食材を切り、カセットコンロで煮炊きをするなど、視覚や触覚からも食欲を刺激し、少しでも利用者が調理に参加できるよう工夫をしています。</p>	<p>「栄養献立会議」には、利用者が全員参加して自由に意見や要望を出し、献立を決めています。調理は職員中心となりがちですが、テーブルでまな板と包丁を使って材料を切ったり、カセットコンロで煮炊きをする等、利用者が食事作りに参加できるように工夫しています。一瞬一瞬を楽しんでもらおうと、見た目にもこだわり、食材や食器にも配慮しています。また、四季折々の自然を眺めながらの食事は、利用者の満足を高めています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量や水分量は毎食チェック表に記入をし、一人一人の把握を行っている。特に水分に関しては、多種類の飲み物を用意し、好みに合うものの提供を行っている。また、ゼリーなども用意し、個々にあった水分摂取が出来るように努めている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず歯磨き、うがいをして頂き口腔内の清潔保持に努めている。また年1回の歯科検診を行い歯科医の口腔ケア指導を受けている。義歯の不具合による咀嚼や嚥下、誤嚥に注意し、随時、歯科の受診を行っている。歯磨きやうがいが不得意な方については職員が支援を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンの把握に努め、出来るだけおむつを使用しないよう支援しています。トイレ誘導が必要な方については、羞恥心や不安な気持ちにならないよう、声かけにも配慮している。排泄係を中心にその都度、常に排泄物品の見直しも行っている。日中は布の下着で過ごして頂いている	「排泄はトイレが当たり前」の考えの基、排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っています。日中は布パンツを使用してもらっています。排泄係を中心に、随時適切な排泄物品の見直しも行います。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニュー作成時に食物繊維の豊富な食材を取り入れるなど、便通に配慮している。また朝の体操時には出来るだけ体を動かす楽しい体操を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時には本人の体調や心身機能に留意し支援を行っている。入浴は毎日可能でご希望があれば柔軟に対応している。拒否がある場合でも、足浴や部分浴を行い、入浴に繋がるように、タイミングを見て働きかけています。出来る限り同性介助を行い入浴を楽しんで頂けるようタイミングの良い声かけをチームケアで実施している	入浴日は決まっていますが、希望があれば毎日の入浴も可能です。風呂は広くて明るく、ゆったりと入れます。拒否される利用者には、足浴などの部分浴を行い、タイミングをみて入浴を促しています。できる限り同性介助の支援を心掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常的にいつでも休息を取れる体制や環境作りを行っている。また、倦怠感や諸症状を訴えられない方も含め、個々の体調管理を行っている。特に夜間帯については、安眠が確保されるように入眠前の温かい飲み物の提供や、水分補給などを行い個々の状態にあった支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴や現状の心身の把握を常に行い、薬に対しては、お薬説明書を活用し、効果や副作用、注意点などについて確認している。また、誤薬予防のために投薬時にはダブルチェック、トリプルチェックを行っている。症状の変化については、随時管理医に報告し、指示に従っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴、家族からの情報により趣味や得意なこと、日常生活から読み取れる興味のあることを把握し、張り合いのある生活が出来る様、支援している。また、役割を持つことにより、活気ある生活を送って頂けるよう支援している。日常生活全般において、自然な形で参加できる環境づくりを行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出の希望を伺い、希望に沿った支援を行っている。また、外食の機会を設け、希望される場所に食事外出をしている。予定を立てずに、フラットと散歩や買い物に常に出掛けている。また、家族の協力のもと、お盆やお彼岸等にはお墓参りや家族との食事会等、本氏の身体状況に問題がない限り、外出の支援を家族と協力しながら行っている	利用者が重度化する中で外出は困難になりつつありますが、買い物・外食など、外出の機会を作る努力をしています。前もって決めた外出だけでなく、行きたい気分の時に出かける外出も大切にしています。お盆やお彼岸の墓参りには、家族の協力で出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方には金銭管理をしていただいている。自己管理が出来ない方には、職員と一緒に買い物したり、レジでの支払いをしたりし、社会参加を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご希望があれば随時対応を行っている。ご家族様の希望や、携帯番号も把握し、支援させて頂いている。家族の協力もあり、電話をかけて頂く依頼も行っている		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、食堂、居室の窓から外の景色がいつでも見ることが出来、草花や作物の実りから四季を感じる事が出来る環境にある。また、リビングの壁には、季節が分かりやすい様に壁面作りを行っている。	食堂とリビングからは、四季折々の自然を見ることができ、利用者はゆったりと過ごすことができます。食堂の隣には畳の部屋があり、リクライニング式のソファが置かれ、足を伸ばし、くつろげる場となっています。一人になれる居場所もあり、利用者が思い思いに過ごせる配慮が見えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファ以外にも、お一人でも座れる場所の確保と椅子の設置を行い、居場所の工夫をしている。仲良しの利用者同士が話をしやすい座席の配慮も行っている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや御仏壇、手作りされた作品などの持ち込みをして頂き、馴染みの品があることにより、居心地の良い環境を作っている。また、思い出の写真や、活動時の作品などを飾って頂いている。	各居室は、広い収納スペースがあります。利用者は、使い慣れた家具や仏壇、テレビ、家族の写真などを持ち込み、思い思いの居室を作っています。居室作りには家族の協力も得ながら、居心地よく過ごせる支援を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに理解しやすい表示の工夫をしている。例えばトイレ表示や、表札を目の高さに合わせたり、わかる言葉や文字での配慮を行っている		